山 行 報 告 書

報告書作成	2005年9月23日

山名 [山域]	御岳山、継母岳（２８６７m）	目的と方法	展望と自然観察
登山期間	9月17日(土) ～ 9月18日(日)	山行形態	一泊二日(頂上テント泊)
参加人数	2名		

行動記録

岡崎IC(515) ==0:40== 土岐JCT(555) ==0:25== 恵那峡SA(620,640) ==0:05== 中津川IC(645) ==1:05== 道の駅「三岳」(750,800) ==0:40== 御岳ロープウェイ(840,850) ==0:05== 黒沢登山口(855,920) --0:40-- 御岳八海山支店(1000,1010) --1:00-- 女人堂(1110.1125) --1:05-- 石室小屋(1230,1240) --0:10-- 覚明堂(1250) --0:03-- 分岐(1253) --0:12-- 二の池新館(1305) --0:20-- 白竜小屋(1325)TS1　就寝(19:10)

起床(3:35)　TS1(500) --0:20-- 二の池新館(520) --0:50-- 継母岳分岐(610) --0:50-- 鞍部(700,713) --0:17-- 継母岳(730,740) --0:20-- 鞍部(800,812) --0:48-- 継母岳分岐(900,940) --0:15-- 剣ヶ峰(955,1000) --0:20-- 二の池本館(1020) --0:20-- 白竜小屋(1040,1050) --0:25-- 三の池(1115) --1:05-- 女人堂(1220,1235) --0:27-- 行場小屋(1302) --0:06-- 御岳八海山支店(1308,1317) --0:11-- 湯川温泉分岐(1328) --0:02-- 日野製薬出張所(1330) --0:10-- 黒沢登山口(1340,1400) ==0:12== 中の湯本館(1412,1505) ==0:17== 手打そば処「御嶽」(1522,1555) ==0:30== 中津川IC(1725) ==0:30== 土岐JCT(1755) ==0:25== 鞍ヶ池PA(1820,1830) ==0:20== 岡崎IC(1850)

概念図

日誌　9/17(土)　9時20分、黒沢登山口を出発。ここには駐車場が3ヶ所、数10台分あるが、ﾛｰﾌﾟｳｪｰが出来たためか、車は多くない。中の湯六合目支店は閉鎖中であった。女人堂までは整備された木の階段を登る(かなり朽ちてはいるが)。ｶﾗﾏﾂ林が気持ちよい。女人堂からは御岳頂上部が望める(左端が剣ヶ峰)。ここからは急登、日頃の不摂生がたたったかバテ気味。二ノ池、賽の河原を過ぎ白竜避難小屋へ。4時間に及ぶ大(?)宴会後就寝。 頂上部はほぼ1日中ｶﾞｽの中で展望きかず。

9/18(日)　西に傾く満月に見送られながら出発。二ノ池からお鉢めぐりへの登高中にご来光を迎える。今日は晴天が期待できそうだ。お鉢巡りの下り直前(剣ヶ峰から来ると登りきったところ)にケルンが積んであり、継母岳への分岐点であることがわかる。しかし道はほとんどなく廃道化している。左に寄り過ぎると崖になるので右寄りを下降。浮石の多いガレ場とズルズル滑る砂礫で歩きにくい(以前の道は左寄りにあり、ところどころケルンがある。それを探しながら下るのがよいだろう)。鞍部からは尾根の左側の砂礫を登る。途中大岩があるが、ここは右側を難なく巻ける。頂上直下は岩場である。登れるところは何箇所もあるが、左に巻き気味にいくのが最も登りやすいだろう。ただし浮石が多いので、転落、人工落石には注意が必要だ。

再びお鉢巡りに戻り、剣が峰、二ノ池、賽の河原を通過し三ノ池へ。ここから女人堂への道は、斜面のﾄﾗﾊﾞｰｽで沢をいくつも越えていく。思ったより長くてきつい。女人堂からは軽快に下り、下山後、中の湯本館で汗を流した@600)。尚、日帰り入浴は基本的にはやめたとのこと。

継母へは、好天で展望が利かない限り行かないほうがよいであろう。雨天時は岩場、砂礫で滑りやすくなり、ガスに巻かれると道を失う危険性が増大する。

感想　御岳にはこれまで何回か登っているが、2日にわたり歩いたのは今回が初めてである。じっくり味わうと御岳は奥が深くて本当にいい山だとつくづく感じた。継母岳は喧騒から離れ静かな山が楽しめた。今度が麻利支天から継子あたりを散策してみたいものだ。

いい山を見つけていただいたリーダーに感謝です。